

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 15 章 1~20 節>

①「昔の人の言い伝え」「自分の言い伝え」「神の掟」「神の言葉」。

ここを読む鍵は、「昔の人の言い伝え」(2)「自分の言い伝え」(3, 6)とは何かということです。これは、ここでイエス様が「神の掟」(3)「神の言葉」(6)と言われている、神様が直接与えて下さった教えとは違う、それらをさらに使う場面に応じて人が事細かく定めて積み上げて来た教えを指しています。エルサレムからわざわざやって来たファリサイ派や律法学者はその専門家たちの代表です。

②彼らの問いに直接答えず、その偽善性を強く諫められたイエス様。

彼らが一見もっともらしく見える問いかけ方をした問いに対してイエス様は直接答えられず、強い調子で、彼らの偽善性を指摘されたのです。「自分で好きなように、神の教えを料理している」と。ここでイエス様が出された「父と母を敬え」の教えの例から、彼らの「愛の欠け」が見えて来ることを多くの人が指摘しています。イエス・キリストを信じる信仰者が色んなことについて議論を交わすとき、そこにイエス様が示されたような愛があるかどうかが大事なのです。

③自分自身が自分の中心になるとき、人は他者も自分もだめにする。神を中心に置いて生きるとき、他者も自分も生きる者となっていく！

神を軽んじ、愛に欠けているというイエス様の指摘は、後半の話にも一貫しています。「口から出て来るものが人を汚す」のは、それが「心から出て来るから」と 18 節で二度強調されています。「心から」、それはつまり「神の御旨に問うことなく、私が考えて」ということです。人間は、神を考えず、自分で考えて生き出すときに良くないことを考える方向に追い込まれていくのです (18 節：十戒後半の戒めの破りの列挙。また、創世記 3 章のアダムとエバを見よ)。昨日、YMCA の式典で、聖書の神の愛、キリストの姿にうたれた者として、その教えを掲げて生きようという素晴らしい告白を共にしました。神を中心に置いて生きるときに私たちは生きる、まさにそのことを覚えました！